令和５年度　伊江村学力向上推進学校教育部会実践報告【伊江中学校】

Ⅰ　目標

生徒一人一人の「確かな学力」を向上させ、「生きる力」を育む
～学校・家庭・地域・行政の連携を通して～

Ⅱ　基本方針

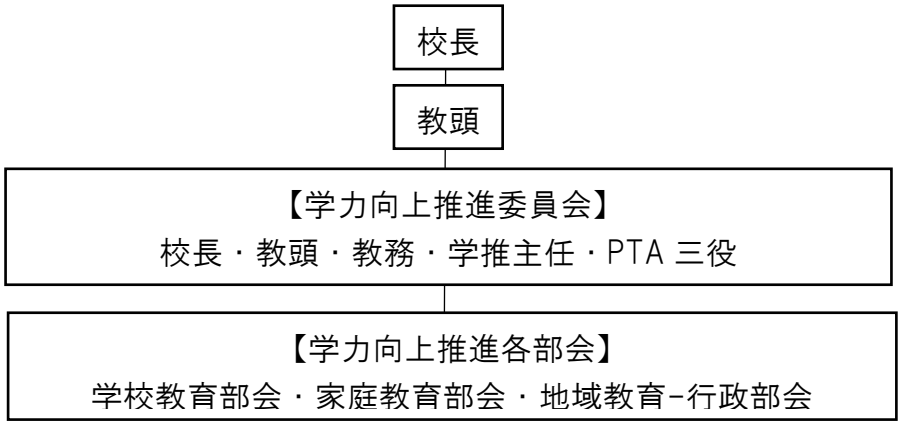
１　家庭・地域と連携して、基本的な生活習慣を形成する。
２　「島建ち」を意識し、地域や社会に求められる資質・能力を身につけさせる。
３　学校教育方針、各教科テーマを家庭・地域と共有し、学校評価の結果を改善につなげる。
４　家庭・地域・行政機関と連携し、生徒一人一人に寄り添った取組を推進する。

Ⅲ　取組の重点

１　授業改善を通した「確かな学力」の向上
(1) 伊江島スタンダードによる授業展開の確立
(2) 諸検査結果の課題に対する教材研究、指導法の工夫
(3) 学習を支える力の育成
(4) 集団づくり、自主性、自治能力の育成
(5) 地域、教育行政と協力した組織的な学力向上に係る取組

２　家庭・地域・行政との連携による「生きる力」の育成
(1) 地域行事への参画で豊かな心と郷土愛を育成する
(2) 「ふるさとが語れる国際人・グローカルな人材」の育成
(3) キャリア教育を通した「島建ち」教育の充実
(4) 地域・他者との交流や体験活動を通し、道徳心、表現力等豊かな人間性の育成

Ⅳ　組織



【知育に関する取組】伊江島スタンダードを活用した授業改善

互見授業の様子（1 人年 2 回）

【授業参観の視点】

1 伊江島スタンダードを軸とした授業を行っているか（めあて・まとめ・振り返り）
2 ペアやグループでの学習を通して、生徒と生徒をつないでいるか
3 ICT をいかに有効活用した授業づくりをしているか
4 個別最適な学びと協働的な学びの一体化が図られているか
5 授業のどの場面で、生徒指導の４つのポイントを生かしているのか

Ⅴ　授業改善の取組を振り返って

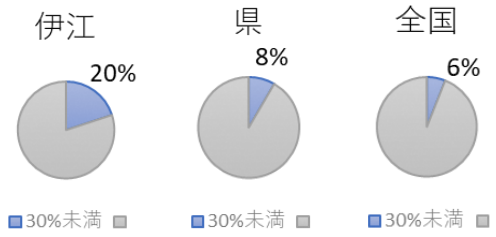
(1) 伊江島スタンダードによる授業展開の確立

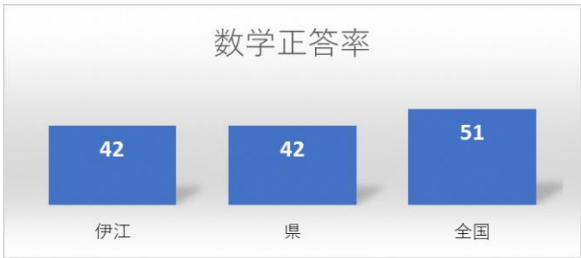
伊江島スタンダードは下記の通り提言さ伊江村の子供たちは、15 歳になると島を離れる。それまでの間に島の将来を担う人材としての「縦の絆活動」によるリーダー育成、ふるさとの良さを醸成する「ふるさと教育」ふるさとを語れる国際人を育成する「グローカル教育」を推進し、「島立ち」から「島建ち」に向けて「生きる力」を育むことを目標に「伊江島スタンダード」が作成された。

各教科における授業スタイル（授業の流れ）を伊江島スタンダードで統一することで、生徒が主体的に学び、級友と意見交換しながら自分の考えを確立し、他者の意見を受け入れながら自分の考えを広げ深めるという学習過程が身につき、確かな学力の定着につながるとして、実践している。生徒は見通しを持って授業へ参加し、主体的・対話的で深い学びのある「しかけ」を授業の中に組み込む授業改善に日々取り組んでいる。

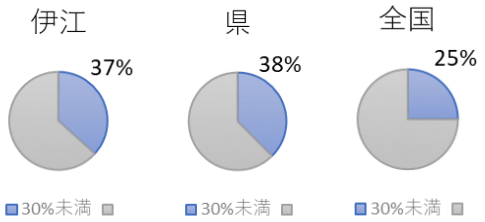
令和５年度 全国学力学習状況調査結果

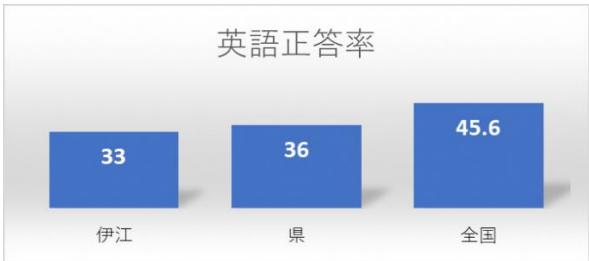
国語　正答率 30%未満の生徒の割合



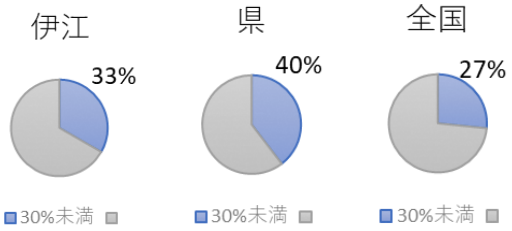


数学　正答率 30%未満の生徒の割合





英語　正答率 30%未満の生徒の割合



(2) 諸検査結果の課題に対する教材研究、指導法の工夫

昨年度到達度調査からからの平均点の推移

	R４　沖縄県到達度調査（１月実施）					
学年	１年			２年		
教科	国語	数学	英語	国語	数学	英語
伊江中	46.8	29.4	40	42.2	44.4	48.5
国頭地区	50.1	40.6	41.4	46.4	37.5	46.5
沖縄県	54.8	44.3	42	49.5	43	50.2
県との差	−8.0	−14.9	−2	−7.3	1.3	−1.7

	R5 学びの確かめ（6 月）					R5 全国学調（4 月）		
学年	１年		２年			３年		
教科	国語	数学	国語	数学	英語	国語	数学	英語
伊江中	30.2	48.7	35.6	31	38.5	55	42	36
国頭地区	34.1	50.4	41	41.8	41.8			
沖縄県	38.3	58.6	44.1	47.9	44.3	65	42	33
県との差	−8.1	−9.9	−8.5	−16.9	−5.8	−10	0	−3

	R5 沖縄県到達度調査（２月）						R5 リハテスト（11 月）		
学年	１年			２年			３年		
教科	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
伊江中	43.1	27.1	42.7	43.4	25.8	40.9	35	34	47
国頭地区	47.7	29.8	37.2	47.2	38.5	48.6			
沖縄県	50.7	36.5	37.7	49.8	43.2	48.5	41	33	47
県との差	−7.6	−9.4	+5	−6.4	−17.4	−7.6	−6	＋１	0

ほとんどの教科が県との差においてマイナスで推移しているが、改善傾向にある教科・学年も多数あった。1 学年、3 学年においては全ての教科で改善が見られる。

全教科に共通の課題として、①複雑な思考力・判断力・表現力が必要とされるような問題に対して正答率が下がる。②協調性は高いが、自発的に熱意を持って学習に取り組んでいる生徒が少ない。③補習や家庭学習など、個々の課題に応じた学習の指示や支援が十分では無い。ことが挙げられる。

離島・僻地という環境においては、採用二校目の職員や、指導経験の無い非常勤講師が多く、より実践的で授業力の向上に直接的に結びつけるためにも授業における基本的な授業スタイルを統一し、どの授業においても「主体的・対話的で深い学び」を担保するため、伊江島スタンダードの確立を次年度の研究テーマと位置付ける。また、各調査からも明らかになっている通り、学校外での学習時間の少なさを解消するため、各教科主導の家庭学習の工夫を行っていく。

【徳育に関する取組】豊かな体験学習

ふるさと学習パーリー体験学習

ねらい
１　伊江村の伝統行事を体験することにより、地域に愛着をもち故郷を大切にする心を養う。
２　パーリー体験を通して仲間と協働する姿勢や態度を養う。

【教師の感想】郷土行事である海神祭がコロナウィルス感染拡大により中止になったため、伊江漁協の協力のもとパーリーを体験した。競技については、船３隻（学年に１隻使用、13 名乗れる）あり、学級にてチーム編成を行った。海岸からスタートし沖合のポールをターンし戻ってくる約 200mのコースで、所要時間は約５分である。生徒達は漁協の方から漕ぎ方をレクチャーしてもらいながら、メンバーで息を合わせ、ゴールまで精一杯漕ぎ続けた。今回の体験により、生徒達に郷土の伝統と文化を大切にし、地域の理解を深め、地域の一員としての自覚を持ち郷土を愛する心を育むことができた。

３学年魚料理教室

ねらい
１ 普段の授業では習得できない知識や技能を身につけることで生きる力を育てる。
２ 15 の島建ちに向けて、自立した生活ができるよう調理の技能を身につける。

【教師の感想】「島建ち教育」のねらいは、生徒に社会人となって生活に役立つ力、すなわちたくましさ・粘り強さ・他者と繋がる力等を身につけさせることである。また、進学だけに捉われず将来を見通した社会で活躍できる人づくりも視野に力を入れている。
魚料理教室は「島建ち教育」の一環として、海に囲まれた伊江島の生徒達に魚のさばき方、切り方、調理法などを伝授し、郷土への愛着を育てることを目的として行われた。当日は、伊江漁港の皆さんの全面的な協力・支援を受け実施することができた。生徒達は、日頃魚にふれる機会は少なく初めは慣れない手つきだったが、講師の指導のおかげで何とか食べられるような状態に調理することができた。今後自立していく生徒達にとっては貴重な体験となった。

【体に関する取組】健康・保健関係

令和５年度　性・エイズに関する教育実施計画

１．ねらい

HIV/AIDS は、治療法の進歩により、HIV に感染しても長期生存が可能になったものの、職場や学校、医療機関など様々な場所での偏見や差別は残っている。性に関する偏見や差別は HIV/AIDS だけでなく、LGBT など性的少数派の人々にも向けられることが多い。

世界エイズデーを機会に、性に関して多様な価値観があることを知り、自分とは価値観の異なる他者を受け入れ共存する意識を育てたい。

２．性、エイズ教育の実施計画

①11 月 27 日（月）の全体集会にて、保健委員会による発表

②12/1(金)の朝の会又は帰りの会で保健委員によるレッドリボンの説明と配布

③各学年の廊下等にてレッドリボンツリーの掲示

Ⅶ　成果と課題

＜成果＞

１．互見授業では ICT を活用した「個別最適な学び」「協働的な学び」が図られた。教科の垣根を越えた授業研究会（リフレクション）を通して日常の授業改善を進めている。しかし、第２回目は実施していない教員もおり、日程調整や授業改善に対する意識の向上を促していく。

２．外部講師の講話により、人権や特別支援に関する意識が高まった。今後は現状と照らし合わせ生徒の指導・支援に役立てていきたい。また本校は１人で担当する校務分掌が多いので、教員一人一人が自分事として考えチーム学校で学校を支え取り組んでいきたい。

３．例年通り、学校・地域・家庭が連携・協力して島建ちに向けて「弁当の日」「魚料理教室」「肉の日」「マネープラン」などの体験活動を行った。昨年度高校進学した卒業生が進路変更したとの情報もある。そこで、島から外の世界を覗いて外から島を見つめる「自立的キャリア意識」を育みキャリア教育の充実を図っていく。

＜課題＞

１．学校評価では保護者から生徒の問題行動や学習規律に関する生徒指導に関する意見が多く寄せられた。今後、学校で共有し「何に問題があるのか」「何をどう変えていけばよいのか」実態を把握し具体策を講じ改善に向けて実践していきたい。

２．今年度も互見授業では授業実践したが、やることに満足せず、マンネリ化・形骸化しないよう工夫していく。さらに「めあて・まとめ・振り返り」を徹底させていく。

３．卒業生の進学先の選定については、進路指導・キャリア教育のあり方、持ち方について検討し、生徒が将来に向けて、力強くたくましく生きる力を育んでいきたい。